

ボランティアフォローアップ講座
個人ボランティアのつどい報告



個人ボランティアの普段の活動を通して、「ボランティアは誰のためにしているものだろうか?」、「自立と孤立はどう違うの?」、「地域のささえあいのしくみをつくるには?」などなど、改めて皆さんと話し合う機会として「個人ボランティアのつどい」を開催しました。

日時：平成 28 年 10 月 9 日（日）13:30～15:30

会場：ミレニアムセンター佐倉 会議室 3・4

参加者：15 名（役員を含む）、ボランティアセンター 1 名、講師 1 名 合計 17 名

1. 松山毅先生の講話 13:35～14:20

「ささえあい」のまちづくりと
ボランティア活動

＜講師紹介＞ 松山 毅氏
順天堂大学スポーツ健康科学部准教授
第 5 次佐倉市地域福祉活動計画策定委員会委員長
佐倉東部地区社会福祉協議会副会長

① はじめに「ささえあい」は必要か？

具体的に「ささえあい」「ささえられる」関係をあげられますか？ さらに「自立して暮らす」の「自立」とは何でしょうか？ と投げかけがあった。

② 「ささえあいのまちづくり」に必要なこと

次に「まちづくり」の中でのささえあいについて。「社会的孤立」は地域の問題として捉え、縁から途切れがちな要因として、子育て・介護・低所得・失業・災害・健康問題・家族や地域の繋がりの希薄化などがあげられた。これらの要因の一つ一つは乗り越えられることでも、重なって起こると孤立が起こりやすい＝誰でも孤立する可能性がある。しかし、孤立して助けを必要としている人でも何かしら得意分野はある。「おたがいさま」、「ささえあい（支える側も支えられる側も）」、「ゆるやかにつながりあっていること（だれかが、どこかでつながっている安心感）」が必要である。

③ 「ささえあいのまちづくり」に必要なこと ～ボランティアの役割とは？

公的な生活支援サービスや専門職のかかわりだけでなく、その地域の人だからできる支援がある。声掛け（あいさつ、見守り）、井戸端会議（居場所）、近所のちょっとした手助けなど、昔は当たり前で近所で助け合っていたこと。これを現代にあわせた「おせっかい」としてボランティアの役割がある。ボランティアには、個人ボランティアから NPO・ボランティアグループなど組織的なものまであるが、それらは行政と市民との間のクッションとしてまたセーフティーネットの網の目を細かくする役割である。きめが細かいほど孤立をふせぐことができる。

④ おわりに～「社会的孤立をなくすために」

住民活動（隣近所・自治会）とボランティア活動を比べて、活動内容や共通点・相違点をふまえ、ご近所だからできること・できないこと、ボランティアだからできること・できないことについて考えてみよう。



2. 懇談会 14:30~15:30

松山先生の講話を受けて「ささえる・ささえられる」経験を含めて参加者全員で発表し、意見交換をした。

- こどもの見守り活動で、子供の笑顔が支えになっている。
- (ボランティアに来てくれるのを) 待っている人がいて、笑顔が返ってくるのが喜び。
- 支え合い社会は、困っている人がいて、支えたいと思っている人が活きる。
- 自立とささえのハザマで悩んでいる。
- ボランティア活動を通して一人一人が大切な存在であることを知ることができた。
- ボランティアにかこつけて、自分自身がみんなに支えられていると感じる。
- 松山先生が「ゆるやかなつながり」を肯定していることに共感できた。ボランティア活動の終活を考えていたが、続けられそう。
- 体調を壊したときに、スタッフや家族に「ささえられている」ことを感じた。

3. ふりかえり (今日のひとことをメモにまとめていただきました。以下抜粋)

支える、支えられるとのテーマは、まさに今の時代のキーワードとしての講話でした。会社生活を終えてからの自分の人生を振り返る良い機会となりました。

自分のしている活動に悩みはつきないのですが、支えられていることに気づき、みなさんに少しでも元気を与えたいと思います。

今日は皆さんからいろんなボランティア感をお聴きする事ができました。講師の松山先生からの投げかけは私自身の活動をふりかえるきっかけとなりました。

日々 いろいろな所でいろいろな人に支えられ、自分のやりたいことができていくことに感謝です。

ボランティアの依頼を受けて出かけていくのですが、相手の方との出会いが、喜び楽しみ、感じたことを共有できたなどが、次の活動へとつながっています。

お話をきいて今後も安心して気長くボランティアを続けられそうです。

個人ボランティアのみなさんの、純粋な気持ち、熱い思いを聞かせていただき、ボランティア活動の原点についてあらためて考えさせられました。

相手あつてのボランティア。「ありがとう」と言われたときの喜び、役に立てている実感、そのようなものがボランティアの報酬であり、動機づけになると、みなさんのお話から感じられました。

知らないうちに支えられ思わず笑顔。こんな毎日がうれしい！

一人の人がある時は支え、ある時は支えられるのが理想。でも、ボランティアに熱心な人は支えられるのは苦手な人多そうな～